2010
プロジェクト概要

文部科学省 科学技術振興調整費 地域再生人材創出拠点の形成

佐賀大学

karatsu project

ひと・もの作り唐津プロジェクト

戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成

文部科学省　科学技術振興調製費
地域再生人材創出拠点の形成プログラム

平成22年度

戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成

佐賀大学「ひと・もの作り唐津」プロジェクト概要

1. 背景

平成18年10月に佐賀大学と唐津市の間で相互協力協定が締結され、平成20年1月から佐賀大学と唐津市及び唐津焼協働組合と、生産高及び生産者数の減少傾向がみられる唐津焼の産業振興・人材の育成を進めるための話し合いを行ってきました。また、佐賀大学文化教育学部では、「佐賀大学中長期ビジョン2008-2015」において「地域の特性を活かした美術・工芸分野の人材を育成するための教育課程の編成」を掲げており、九州全域の伝統工芸の支援・育成を目指し、九州の伝統工芸振興の拠点となるよう努めています。
それらを受けて平成20年3月佐賀大学では、平成20年度の文部科学省科学技術振興調整費の地域再生人材創出拠点の形成に、「戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成」のプログラムを提案しました。プログラムは5月に採択され文部科学省の事業として佐賀大学が受託運営しております。（5年間のプログラムで第一期は、2008年10月に開講、今年度で3年目を迎えます。）このプログラムは、事務局を佐賀大学文化教育学部美術・工芸講座に置き、理工学部、経済学部、外部から迎え入れる非常勤講師の協力を受けながら行います。

2. 目的

「もの作り」は、その原点に遡行し、唐津焼の伝統と多様性を理解しその上で社会の要求を汲み取り応えることから始まる。そのために現在の担い手が先端科学技術と戦略的経営技術の領域を学び、それらを応用しながら、地域の伝統と多様性の中で、自らこれからの唐津焼を発見し、他産業とのネットワークを内外に形成し、唐津焼産業の発展に貢献できる人材を養成する。

3. 研修内容

1年次は基礎過程として、「伝統工芸基礎」、「素材技術基礎」及び、「経営戦略基礎」の3講座で構成し、それらの講義、演習、実習を通して基礎的な知識を身につける。また、講義補完としてインターネットによる授業（e-ラーニング）を利用する。

2年次・3年次は、コア研究課程として、一年次の講義や実習を受け、工芸技術、素材技術、経営戦略技術を総合的に駆使し、マーケットインの発想から顧客のニーズをとらえる市場調査、商品開発、販売流通ルートの開拓などの一連の戦略を、より実際に即して養成対象者が個々に講師陣と共にシミュレーションしていく。それより、個々の養成対象者が、科学技術の応用、商品（作品）の開発、マーケットの開拓に自発的に取り組む為の基礎を作る。2年次前半末（7月）には一般及び関係講師陣に対して中間発表を行い、年度末には近隣都市において市場の反応を図るプレゼンテーションを実施する。また陶芸及び他の伝統工芸の動向・技術について、視察・研修を行う。

さらに3年次以降4・5年目は、その方向性に応じてそれまでの研究をもとに、市場開拓・地域連携・海外での見本市出展などを目標に、研究を社会に打ち出していく。そのほか本プログラムの取組みを広く社会にアピールするため、その成果をシンポジウム等で研究発表し、唐津焼の知名度を高め、産業振興に繋げる。

4. 研修期間及び定員

・3年間（その後研究継続も可能）各学年10名程度
・募集：2008年度、2009年度、2010年度
1年次の授業は各年10月から翌年3月まで実施し2年次は引き続き4月開始とする。

5.対象者

養成の対象者は次の条件の一つ以上を満たす、18歳以上40歳程度の者とする。
・唐津焼産業従事者、事業者
・将来、唐津焼産業に携わろうとする者
・唐津焼産業の科学的素材研究、経営戦略、販路開拓、広報活動等に関心のある者

既存の概念にとらわれない新鮮な感覚で商品開発や作品表現を行える柔軟な発想を持ち積極的に本プログラムの研究・演習に取り組める人材を求める。

6. 施設

研修場所：佐賀大学、佐賀大学唐津サテライト工房“天徳”（唐津市相知町天徳の丘運動公園横）

7. 学費

原則無料とする。ただし、材料費等は自己負担の場合がある。

8. 単位の認定、生成の評価及び修了要件

・修了要件：60%以上の単位取得
・単位の認定は、佐賀大学成績判定：秀（90～100点）、優（80～89点）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（59点以下）に則り、講義及び演習への取組、出席状況、レポート、プレゼンテーション、その他の提出物などにより判断する。修了生には佐賀大学学長より修了証を授与する。
＊一年次の単位の不足分は2・3年次での取得を義務づける。

9. 制作物及び知的財産権の取り扱い

窯業の場合、製作物に対する意匠権等の知的財産権の取得は現実的ではない。よって、公募展などへの発表により、占有の事実を明示する。課題中での試作品については、原則として所有権はプロジェクトに帰属するが、修了後の、獲得した技能・技術の活用については、これを支援する。また、印刷物への転用などプロジェクト活動に対しては、随時制作者に対し、全面的な協力を求める。

10. 組織及び講師一覧

佐賀大学学長 ─┬─ 企画運営委員会
　　└─ プロジェクト事務局 ── カリキュラム検討委員会

氏名	所属	担当講義
●講座主担当		
田中　右紀	佐賀大学文化教育学部美術・工芸講座准教授	○プロジェクト執行代表 伝統工芸基礎講座　コア研究課程
城谷耕生	佐賀大学非常勤講師/Studio Shirotani	伝統工芸基礎講座：ものづくり演習 コア研究課程
寺内　信二	佐賀大学非常勤講師/李荘窯業所	コア研究課程
渡　孝則	佐賀大学工学系研究科・先端融合工学講座教授	素材技術基礎　コア研究課程
松尾　陽好	佐賀大学経済学部経営システム講座准教授	経営戦略基礎　コア研究課程
●佐賀大学文化教育学部 美術・工芸講座		
荒木 博申	デザイン 教授	実習/美術・工芸論
井川 健	木工工芸　講師	
牛塚 和男	日本画　教授	
小木曽 誠	西洋画　准教授	
栗山 裕至	美術・工芸科教育 准教授	
田中 嘉生	染織　教授	
徳安 和博	彫塑　准教授	
前村 晃	美術・工芸科教育 教授	
吉住 磨子	講座代表、美術史・美術理論 准教授	
●外部講師（＊平成20・21年度含む）		
荒川 正明	学習院大学文学部哲学科教授 日本美術史専攻	伝統工芸基礎講座 唐津焼論
梶原 靖元	唐津焼作家、大谷陶房飯洞甕窯窯主	
坂本 祐作	唐津陶土業	
鈴田 由紀夫	佐賀県立九州陶磁文化館館長	
中里 紀元	唐津史家、唐津焼研究	
中里 隆	隆太窯 窯主	
東中川 忠美	佐賀県立名護屋城博物館館長	
吉永 和正	築炉士 有田築炉代表	
池田美奈子	九州大学芸術工学研究院准教授	伝統工芸基礎講座 もの作り演習
井島 守	佐賀県立有田窯業大学校嘱託助教授	
岩下 建作	グラフィックデザイナー、岩下建作デザインオフィス代表/福岡	
大西清右衛門	千家十職 十六代 釜師/京都	
桐本 泰一	漆デザインプロデューサー、輪島キリモト代表/石川 輪島	
島田 真平	ガラス工芸家、Shimada Simpei Grass Works代表/熊本	
多木 陽介	作家/ローマ	
田代 かおる	ジャーナリスト/ミラノ	
冨永 和弘	陶磁器デザイン、(株)白山陶器/長崎 波佐見	
中臣 一	竹芸家/大分 別府	
中山 章	建築家、中山章建築研究室/横浜	
長谷川 武雄	陶芸家、デザイナー、長谷川陶磁器工房代表/長崎 諫早	
藤崎 均	木工家/神奈川	
増田 尚紀	鋳金家、デザイナー、鋳心ノ工房代表/山形 銅町	
鎌田 雅夫	シンクロトロン光応用研究センター 教授	素材技術基礎講座
蒲池 伸明	佐賀県窯業技術センター陶磁器部	
志波 雄三	佐賀県窯業技術センターファインセラミックス部	
藤 靖之	佐賀県立有田窯業大学校教務部長	
石田 雅芳	スローフードジャパン国際部長	コア研究課程
井手本 将典	spitz オーナーシェフ/広島	
内田 鋼一	陶芸家/三重	
大江 憲一郎	パークハイアット東京 日本料理「梢」料理長/新宿	
岡本 作礼	唐津焼作家、作礼窯窯主/唐津	
久高 良治	写真家、クダカスタジオ代表/福岡	
武冨 勝彦	葦農 代表/佐賀 江北	
日野 明子	スタジオ木瓜代表/東京	
前山 仁	セゾンドールオーナーシェフ/呼子	
山下 惣一	農民作家/唐津	

11.一年次カリキュラム概要

講座名		概要	
伝統工芸基礎講座	ものづくり演習	地域の伝統や多様性を守り、それらを踏襲しながら新たな地域文化の可能性を模索する事は今や世界的な課題と言える。グローバル経済や過剰に氾濫する情報により、ますますその本質を捉える事が難しい現代社会において、モノを作る事の根本的な意味をより広い視野でとらえながらもの作りの為の「考える力」を養う事を目的とした基礎講座。	18
		・新素材の造形演習について ○　陶土以外の新素材による造形演習。初めて手にする素材の特性を把握し、それにあった加工方法、造形方法そして機能を検討しながら立体物を制作する。素材特性の解読方法、生かし方など造形物制作に必要な思考方法を鍛える。	
		・他工芸について ○　他工芸の職人からその素材や技術について学ぶ事により、焼物素材及び技術との比較、焼物と他素材の組み合せの可能性などを考える。そして他産地の現状と問題点などを紹介して頂くことで、これからの唐津の方向性についての参考にする。	
		・デザイン文化について ○　本来デザインとは流行や消費経済の一部ではなく、民主的な社会を目指す新しいモノ作りの旗印であった。本質的なデザイン文化とその起源を学ぶことにより、現代におけるモノ作りの意味を考える。	
		・地方都市の自主性とモノ作りについて ○　地方の都市や村がそれぞれの文化的アイデンティティーを再認識し、どのようにこれからの町作りとモノ作りに生かしていく事が出来るのか。グローバル社会の渦の中で、今後ますます。重要になる地方の自立性についてフィンランドの工芸村、イタリアのアグリトゥーリズモ、トリノ工科大学の山村研究などを例に考える。	
		・道具について ○　焼物においては器や花器などの道具類を作る事が多いが、各々が作陶する対象としての道具の成り立ちや形の意味などを知る事は重要である。その訓練として、国や文化の違いによる様々な道具の差異や実例を基にした道具の成り立ちなど道具について考える。	
	唐津焼論	○唐津焼の素材・焼成などの独自性を学ぶとともに、日本文化の中の唐津焼の位置や特性、これからの可能性などについて学習する。	14
	概論・実習	ドローイング：対象をよく観察し、線画で描く方法を学ぶ。	14
		工芸論：日本における美術・工芸の成り立ち、西洋との関係について学ぶ。	
		現代陶芸論：現代陶芸の成り立ち、現在の状況について学ぶ。	
素材技術基礎講座	素材技術基礎	新製品の開発には原料、成形、焼結を知ることが重要である。ここでは、各種分析装置による原料（土、釉薬）の生成相および組成分析、土の成形性の評価、土の加熱による分解および焼結挙動の解析および観察、焼結製品の微構造解析と強度測定、釉薬の発色原理とその解析法について解説する。次に、各種装置を用いた実試料の解析を行い、新商品開発の指針を得る。	16
経営戦略基礎講座	経営戦略基礎	新たな製品開発や販路開拓にあたって，産地内、他地域、異業種などとの間で協働する事もその選択肢として必要となる。また、長期的視点に立って、産地や自らの事業の新たなあり方を創造するためには戦略的に発想する能力が不可欠である。さらに、市場性のある製品作りにあたって、製品、顧客、市場を分析し理解することが必要である。このため，協働を企画、組織化し、及び進展させるために必要なマネジメントに関する基礎知識並びに自己を取り巻く現状認識及び長期的視点に立った事業構想の基礎としての経営戦略並びに市場性のある製品作りの基礎としてのマーケティングに関する基本的知識の習得を目指す。	18
その他	フィールド研修	唐津市の窯元や、県内外の視察研修を行う。	16

・1コマは原則60分とする。　＊必要に応じ、上記のカリキュラムは変更することがあります。

12. 連携自治体・団体、関係・協力機関

・連携自治体：唐津市　・協力：唐津焼協同組合

・協力機関：佐賀県窯業技術センター、佐賀県立有田窯業大学校、佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県工業技術センター、佐賀県地域産業支援センター、佐賀大学総合分析実験センター、佐賀大学産学官連携推進機構

問い合わせ・連絡先
■佐賀大学 文化教育学部 美術・工芸講座 窯芸教室
「ひと・もの作り唐津」プロジェクト事務局
■〒840-8502　佐賀市本庄町1番地
■Tel/Fax : 0952-28-8345
■ホームページ　http://karatsup.pd.saga-u.ac.jp/
■E-mail : karatsup@ml.cc.saga-u.ac.jp

◎受講希望者は、募集要項（別紙）をご請求ください。